

領域4 インフォーマルミーティング

2007年9月22日(土) 12:30~13:30 TG会場

代表：小宮山進(東大総合) (~2007.9)

副代表：樽茶清悟(東大物工) (~2007.9)

世話人：林稔晶(NTT物性基礎研)、小林研介(京大化研) (~2007.10)

熊田倫雄(NTT物性基礎研)、今中康貴(物材機構)、古賀貴亮(北大工) (~2008.4)

配布資料：「シンポジウム、招待講演・企画講演の提案に当たって注意すべき事項」

【報告事項】

1. プログラム小委員会・領域委員会報告 (2007.5.23)

(1) 企画講演として領域4から申請した4件が採択された。

①招待講演 Amnon Aharony

“Quantum phase measurements in mesoscopic devices” 提案者：勝本信吾

②シンポジウム 「グラファイトからグラフェンへ」 提案者：小林研介

③領域4若手奨励賞紹介 紹介者 樽茶清悟

④若手奨励賞授賞記念講演 「スピンホール効果」 講演者 村上修一

(2) 領域4の世話人定数 変更の承認

領域4の世話人を(3+2)名の体制から(3+3)名の体制に2007年11月から変更する承認を得た。(説明：今まで、春と秋に交代する世話人をそれぞれ3名と2名の体制で行って来たが、春の学会を実質的に世話する世話人=3名に対し、秋の学会の実質的世話人=2名、となっており、分野構成その他で不都合な状況となっていたため、春、秋の学会をともに3名の体制としたもの。)

(3) 企画提案の際に注意すべき事項を若干明確化した(配布資料参照)

領域4のHPにアップロードする予定。

(4) レビュー講演

今学会の試行として、従来の総合講演に代えて、23日の午前中をレビューセッション(3つのパラレルセッションで物理全分野から総計6講演)にすることにした。この形態を次回以降の学会に継続するかどうかは、今回の結果による。(おそらく、聴衆の出席状況やアンケート調査結果から判断することになると思われる。)

2. プログラム編成会議 (2007.6.15)

最近、おそらく予算事情のために物理学会事務局から毎回「会議当日はできる限り少ない人数(各領域半数~2/3程度)の出席で作業が行う」ことが要請される。さらに、東京近郊の委員が望まれる。今回、領域4では東京近郊の林氏・熊田氏・今中氏の3名が準備の後編成会議に

出席して作業し、小林氏は e-メールにて準備作業に加わった。

3. 第 1 回日本物理学会若手奨励賞（領域 4）

審査委員会

委員長： 領域 4 代表 小宮山進 （東大院総合文化）

委員： 領域 4 副代表 樽茶清悟 （東大院物工）

委員： 前領域 4 代表 大塚洋一 （筑波大物理学系 & 学際物質科学研究センター）

委員： 大野英男 （東北大電気通信研究所）

委員： 永長直人 （東大院物工）

平成 19 年 2 月 16 日の締め切り後、応募書類を元に上記の審査委員会にて審議し決定した。ただし、審査委員が候補者と師弟関係または授賞対象論文の共著者となっているケースがあったため、物理学会の規則により当該審査委員はその候補者の審査に加わらず、また、最終候補選定の審議から外れた。

なお、理事会にて若手奨励賞の英語呼称が以下のとおり決まった。

Young Scientist Award of the Physical Society of Japan

4. 領域 4 メーリングリスト (jps-semicon@appi.keio.ac.jp) への参加呼びかけ

学会に関する各種情報や意見の交換が行われるので、学生も含め是非登録をお願いします。メーリングリストとその登録に関しては、領域 4 の Web (<http://div.jps.or.jp/r4/index.html>) をご覧ください。

【審議事項】

1. 次期領域代表・副代表（任期：2007.10～2008.9）の確認

代表： 樽茶清悟（東大物工）

副代表： 江藤 幹雄 （慶大理工）

2. 次半期の世話人確認

熊田（NTT）・今中（物材機構）・古賀（北大工）（2007.5～2008.4）

秋山（物性研）・河野（理研）・遊佐剛（東北大）（2007.11～2008.10）

3. 次々期世話人（任期：2008.5～2009.4）の紹介・承認

福田昭（京大）、村山明宏（東北大多元物質研）、川村稔（東大生産研）

4. 世話人の仕事分担

・プログラム編成（編成会議への出席は東京近郊の 3 名程度）

熊田・今中・秋山・河野氏から 3 人？

・領域 HP のメンテナンス（1 名）

本年 9 月までの半期は小林氏が担当。本年 10 月からは？

・シンポジウム、招待講演、企画講演の計画（全員）

1 年近くじっくり考え、任期最後の学会で何かを企画することが大変望ましい。

4. その他

シンポジウム、招待講演・企画講演の提案に当たって注意すべき事項

(物性領域プログラム小委員会での採否検討の際、問題とされる項目)

平成19年5月23日

- ・ シンポジウム、招待講演・企画講演を通じて講演登壇は1回とする。提案時においても講演者の重複は認めないことがある。ただし、シンポジウムでの10分以内の「趣旨説明」や「まとめ」等の登壇は、ここでいう講演とはみなさない。
- ・ シンポジウム、招待講演・企画講演を通じて、提案者と講演者(推薦理由に掲げる論文の共著者を含む)が同一の提案書は審査の対象としないことがある。
- ・ シンポジウム提案者は、10分以内の「趣旨説明」または「まとめ」の登壇者として加わることができる。また、当該企画が滞りなく開催されるよう座長の一人としての任を果たすとともに、概要集原稿や会期後の報告にも責任を持って協力することとする。
- ・ シンポジウム講演は、一つの所属に偏らないことを原則とし、一つのシンポジウムで同じ部門(学科・専攻など)から2名以上の講演者を呼ぶことは、特別な理由がなければ認められない。(上の特別な理由として、実験と理論など専門が異なる場合で、且つシンポジウム遂行にとって重要な講演者と判断できる場合を含むこととする。)
- ・ シンポジウム講演は、休憩時間を含めて原則3.5時間以内とし、4時間を超える物は認めない。
- ・ 共著者が含まれる講演については、シンポジウム、招待講演・企画講演ともにプログラム表記は登壇者1名に限るとする。
- ・ 講演概要集の原稿はシンポジウムの「趣旨説明」や「まとめ」も含めて各登壇者2枚までとする。
- ・ 見込まれる聴講者数、希望日程等の事項を必ず記入すること。
- ・ 登壇者の会員番号(非会員の場合はその旨を記入)と電子メールアドレスを必ず記入すること、未記入の場合は採択されないことがある。
- ・ 前回の学会とあまり内容が変わらない招待講演・企画講演並びにシンポジウムは採択されないことがある。
- ・ 総合討論やパネル討論等を設ける場合は、提案者は、パネリストとしてではなく、座長もしくは司会者という形でのみ加わることができる。